

平成 26 年 11 月 9 日にゆめタウン佐賀にて、「OT フェスタ 2014」が開催され、今回事業部員として、初めて参加させて頂きました。

今回のフェスタでは、仕事紹介コーナー、福祉用具展示コーナー、自助具工房、自助具・福祉用具体験コーナー、車椅子体験コーナー、心理検査(性格分析)コーナー、リハビリ・進路相談コーナーなど多彩なコーナーを展開し、私は仕事紹介コーナーを担当させて頂きました。

担当させて頂いたコーナーの中で、印象に残ったことを感想として一つ紹介させて頂きたいと思います。

この仕事紹介では、事業部員の仕事風景の写真をコーナーの一部として展示し、目で知って頂く場を設けていました。

あるおばあちゃんが長い間写真を眺めておられ、気になり声を掛けてみると、「知っている先生がおらんか探しよりました」と笑顔。話を聴いてみると、数年前に初めてデイケアを利用することになり、そのデイケアに知り合いも友人もいなかったそうで、大変不安で、数日通っても話し相手も出来ず、行くのを辞めようとしていた時があったそうです。そんな時、その施設の作業療法士が気さくに声を掛けてくれるようになり、他の利用者さんを交えて話が弾むようになり、友達が増え、デイケアに行くのが楽しみになったことを満面の笑顔で話して下さいました。現在、その作業療法士は、その施設を辞め、別の施設で働いておられるとのことで、「あの先生は、私が不安がっるとば気付いとんしゃったとよね。一目会えるなら、御礼を言いたかよ。『あんたのおかげで私は元気にデイケアに行きよるよ。あんたがおらんやったら今の私はおらんやったよ』と伝えたかった」と話して下さいました。残念ながらその作業療法士は今回のフェスタには参加しておらず、写真にも写っていませんでした。他県に移られたのかもしれませんが。私はこの話を聴いて、会話することも作業の一つであるし、その方が友達を作ること、デイケアに通うこともその人の作業であると感じ、その作業療法士が行ったことは、作業療法実施中の何気ない会話だったかもしれませんが、この会話もまさに、作業療法士が行った「作業療法」だったのではないかと思います。私もそのような作業療法士を目指し、また、そのような何気ない作業療法士の活躍をたくさんの方々に知って頂きたいと感じました。作業療法を知ってもらうフェスタではありますが、作業療法を知っている方との出会いもこのフェスタの魅力ではないかと思います。

白石保養院 事業部員 近藤 昭